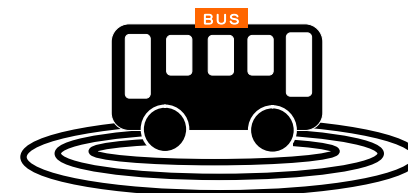


しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト令和元年度実証実験計画

未来創造まちづくり構想会議

令和元年8月22日

静岡県交通基盤部



しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト (2018-2020)



1 目的

目的

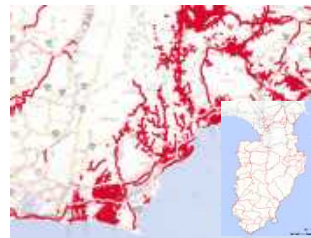
自動運転を活用した移動サービスの導入による地域交通の課題解決の検証
(運転手不足、過疎地域等高齢者への移動支援、公共交通ICT化等への対応)

EV等、次世代自動車及び自動運転車両の研究による県内企業の技術開発を促進

2 事業概要

1 点群座標データの活用

県管理道路1,000km以上の
3次元点群座標データの
オープンデータ化⇒全国初
ダイナミックマップ基盤(株)と静岡県
との協定締結(2017.11)
・県有データから高精度3Dマップ
化(自動運転活用)に成功



2 実験車両(高精度3Dマップ走行) in Ecopa

タクシー型

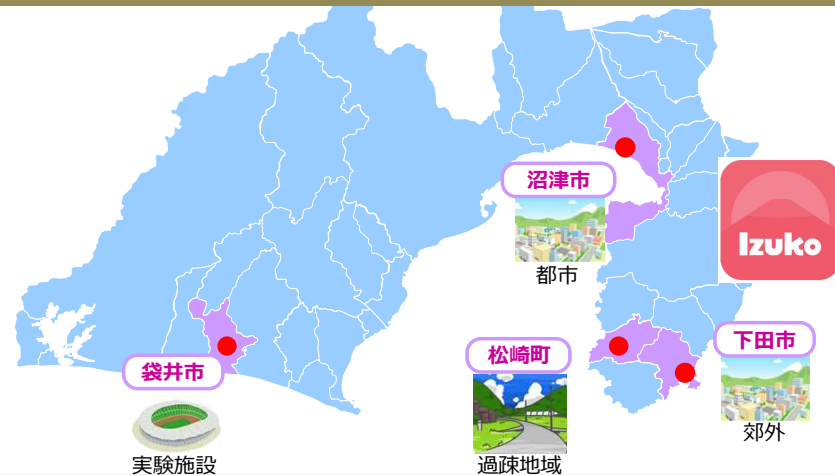
超小型

バス型



2018年度使用車両

3 2019年度実証実験地区(4箇所)



交通事業者

×

地域(市町・住民)

×

県と参画企業・大学

新たな
モビリティサービス
MaaS
の検討・導入

2018年度の実証項目

- 1 県市取得データ（3次元点群データ）の有効性（自動運転利用）
- 2 実証フィールドの有効性（エコパ）
- 3 住民、事業者、自動車関連企業に対する自動運転社会の啓発

エコパ



点群データ



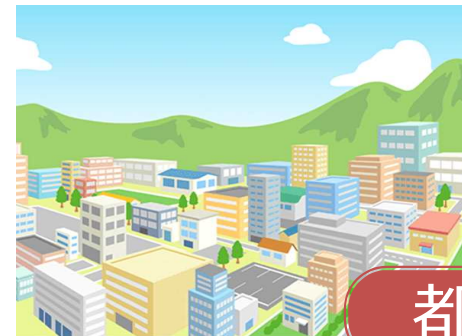
2019年度以降の実証項目

- 1 エコパにおける多様な企業参画によるより質の高い実験の実施
- 2 地域交通の課題解決検証（都市、郊外、過疎地域等の様々な道路条件による実験を実施）

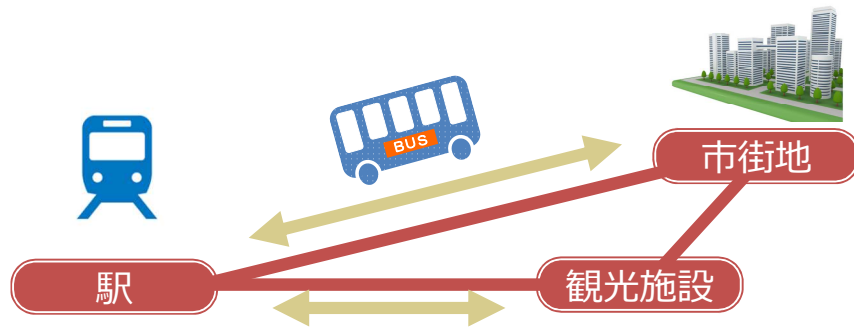
過疎地域



都市



都市(まちづくりへの利用)



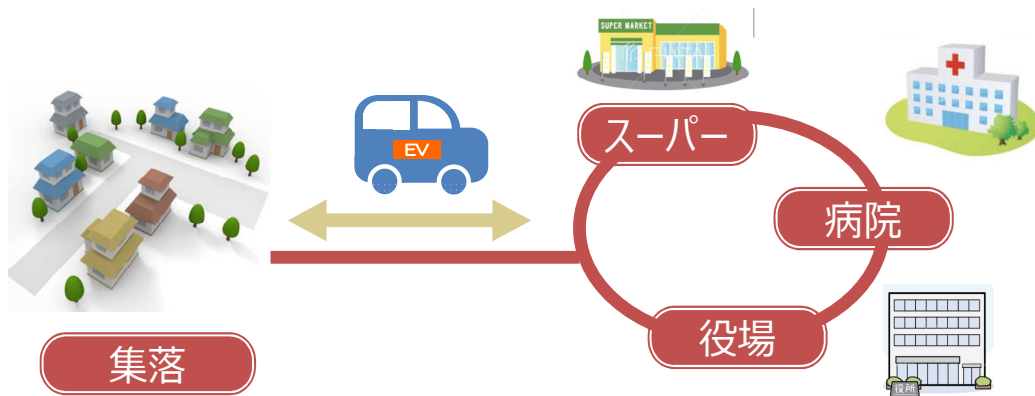
現在の課題	想定する社会シナリオ
<ul style="list-style-type: none"> 生活利用と観光利用の混在 中心市街地の渋滞 観光客に対応した路線バスが少ない など 	<ul style="list-style-type: none"> 移動自体を楽しむサービス 渋滞回避を可能とする交通システムの構築 効率的な大量輸送（高頻度等）

郊外(公共交通サービスでの有効活用)



現在の課題	想定する社会シナリオ
<ul style="list-style-type: none"> 交通不便により地域住民の外出頻度が低下 デマンド型交通導入も、浸透せず 自家用車以外の観光客の移動に限界 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道駅からのラストマイルサービスの提供 既存交通を補完する高頻度な端末交通サービスを実現

過疎地域(地域移動支援サービスの構築)



現在の課題	想定する社会シナリオ
<ul style="list-style-type: none"> 路線バスの相次ぐ廃止 住民の高齢化、免許返納 公共交通空白地域の拡大 行政財政負担の限界 	<ul style="list-style-type: none"> 地域で車両を共同所有 病院や買物施設等への移動を自動運転で支援 高齢者も安心して利用できる新たな交通サービスの提供



エコパ園内とその周辺

【目的】

県内自動車関連企業の自動運転等の開発を促進するための実験フィールドとして、エコパを提供。企業間連携によるシナジー効果を誘発するとともに、公道実験前の検証も行う。

【検証内容】

エコパ園内の高精度3D地図を用いた自動運転車両の開発や、その他走行に必要な関連機器（照明灯、電磁誘導標、急速充電設備、ソフトウェア、情報通信等）の企業間連携による実証実験を実施。

車両

+

ソフトウェア
情報通信
インフラ 等



高精度3D地図を整備済



実験フィールド

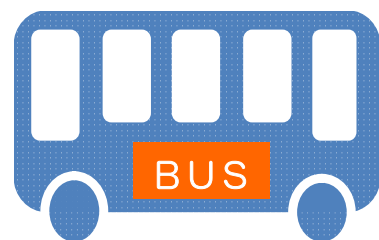
信号情報



エコパ



情報セキュリティ
インフラ点検 など



磁気マーカなど

インフラからの情報

路面情報（氷結、人感）

交通情報（通行止、信号） など



開発中の車両走行が可能

交通事業者×地域×県・企業等の連携

交通事業者の役割

- ・コストマネジメント・シーズの検討
- ・自動運転システムへの理解
- ・ICT技術による運行管理への対応

×

地域（市町・住民）の役割

- ・自動運転社会の受容性確認（自動運転の受入）
- ・地域ニーズの把握（何に困っているのか？）
- ・地域住民へのICT技術の普及（スマホの浸透）

×




県・参画企業・大学などの役割

- ・技術・システムのサポート
- ・次世代モビリティ関連企業とのネットワーク形成
- ・実証実験の実施 ・公安委員会との調整

実証実験
2019～

新たなモビリティサービス
MaaSの検討・構築

地区別の検討概要

地区	車両	主な検討	検討概要	連携企業
都市 沼津市	バス型	自動運転バスの ترام、BRT 利用の可能性	港－駅間の交通量が多く移動量のあるルートにおいて、一般車両との混在走行での安全運行の確保と、高頻度運行の可能性について地域のニーズとビジネスモデルの検討を進める	 伊豆箱根バス
郊外 下田市	タクシー型	バス、タクシーの再編 効率的な運行	MaaS(Mobility as a Service)として、駅からのA I、自動運転を活用した2次交通(バス、タクシー)として、ラストマイルのまちづくりを検討を進める	 東急電鉄
過疎地域 松崎町	超小型	新たなモビリティサービスの検討	バス路線の維持が今後困難な集落地域における地域住民の自動運転車両のシェアリングビジネスの検討を進めるとともに、ドライブサポートとしての安全走行を確認する	<small>TOKAI BUS Official Web Site</small> 

沼津港－沼津駅

【交通課題】

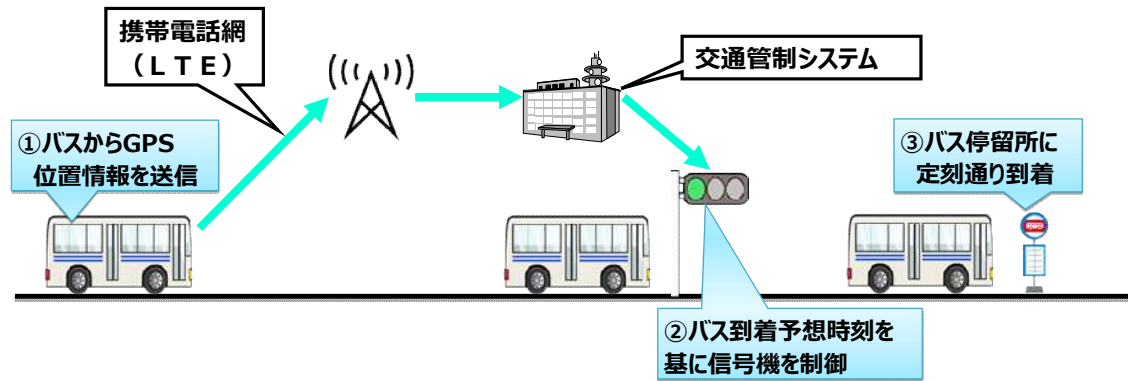
沼津港は、県東部地域の代表的な観光地として年間160万人以上の集客力があり、その交通手段は、関東圏からの自家用車利用が7割以上。港が賑わう一方で、駅周辺市街地への波及や、2区間を接続する既存バス路線の混在等の問題がある。

【検証内容】

移動自体を楽しむ新たなモビリティの導入、また運転手不足への対策として、当該地域での検証を行う。さらには定時性、高頻度運行を実現するための、BRT・トラム化利用としての可能性も検証（信号制御など）

信号と連動した自動運転の実証実験

交通ボトルネックである大手町交差点のほか、関連する主要な信号、交差点において自動運転バス優先通行信号制御を行い、**停留所定刻到着支援**を検証



都市交通 + 観光交通



【実験の展望】次世代モビリティの導入と新たな交通システムの検討

将来へのシナリオ

STEP 1 次世代モビリティ	次世代モビリティ(超低速G S M) を本格導入し、港と駅を繋ぐシンボリックな交通を実現
STEP 2 新交通システム	加えて、信号制御システムや交通渋滞の緩和、高度な通信技術の導入によるインフラからの支援を実現
STEP 3 自動運転技術	さらに、将来の自動運転化等に対応可能な、高度交通システムを構築できるようなインフラとモビリティを準備

JR沼津駅

↑
新技術車両の導入
+
インフラ支援
県管理道路と信号との連携

沼津港

自動運転実証実験 2020年1月



将来のシナリオを見据えた実験の実施

自動運転車両の走行技術の問題点（安全性・社会受容性・周辺への影響）の整理や、信号制御による他の交通への影響や定時性の確認。STEP 2に向けた継続的な取組、技術的課題の整理。

STEP 1

2020年3月～



【EVバス】グリーンスローモビリティの本格導入

伊豆箱根バス(株)が駅⇔港で路線バスの運行を開始

- ・2020年3月～運行開始予定
- ・車両はEcom-10（運転手・立席を含む23人乗り）

※写真はEcom-8(昨年度実験の画像)を使用

下田市駅周辺

【交通課題】

伊豆半島の観光拠点である下田市の伊豆急下田駅周辺は、観光地と住宅地が密集し、観光客の移動と、地域住民の移動の双方をより快適するラストワンマイルの整備が重要となっている。

【検証内容】

伊豆観光MaaSプロジェクトで実施するAIデマンド交通において、自動運転システムを導入

2.観光型MaaS：オンデマンド乗合交通

引用：東急電鉄資料

下田旧市街を対象に、交通空白地帯を埋める新しい交通を試行
(下田駅構内組合加盟・タクシー3社による運行)

【乗客】スマホで行先を選び乗車予約

【運転手】AIが最適ルートを表示



SAV乗客用アプリ



SAVドライバー用アプリ

地域交通 + 観光交通 (MaaS)



【実験の展望】自家用車に代わる快適な移動を実現するまちづくり

将来へのシナリオ

STEP 1 AI・デマンド	駅からのラストマイル（1.6km）エリアを網羅する新交通の導入・検討
STEP 2 交通政策	エリア内交通の規制（速度や、総量など）、自家用車からの転換を実施
STEP 3 自動運転	乗務員不足に対応し、自動運転車両によるエリア内移動を実現

実証実験



【MaaS】AIデマンドタクシー
東急電鉄等による実証実験の実施（有償運送）
（2019年12月～3月）
● 運行エリア



自動運転実証実験
自動運転車の走行技術の問題点（安全性・社会受容性・周辺への影響）の整理や、他の交通への影響。域内道路網への対応を検証。
● 運行ルート



西伊豆沿岸過疎地域

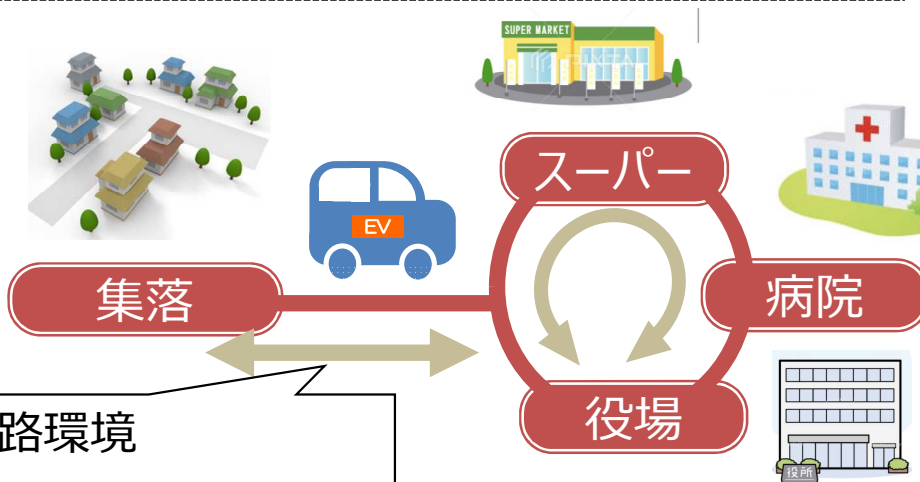
【交通課題】

鉄道がなく、移動手段はバスと自家用車のみ。県内において、過疎化・高齢化が著しい地域。現在は町自主運行バスが、毎時1本程度を運行しているが、乗務員不足や財政負担の問題で継続運行が困難となっている。

生活拠点と集落をつなぐ運行により過疎地域における生活環境の改善と、**新たなライフスタイルを補完する自動運転走行による安全な移動サービスの実現**の可能性を検証

【期待される効果】

- 中山間地域住民の生活交通の確保
- 超高齢者社会への安全な移動サービスの実現
- 新たなライフスタイルを実現する交通システムの構築



地域交通



【実験の展望】過疎地域における移動サービスの検討

将来へのシナリオ

STEP 1 地域内走行	超小型モビリティによる西伊豆地域の公道走行を実現（道路運送車両法の許可）住民の利用機会を創出
STEP 2 情報交通システム	インフラからの情報による狭隘部道路走行（対向車情報の車両提供によるすれ違いの実現）の実現（レベル3支援）
STEP 3 自動運転技術 (自家用有償運送)	地域で車両をレベル3での実用化。運転手は2種免許を保有しないサポート支援、メンテナンスの新サービスを構築（ビジネス検討） 将来的には限定区域内の完全無人走行を実現






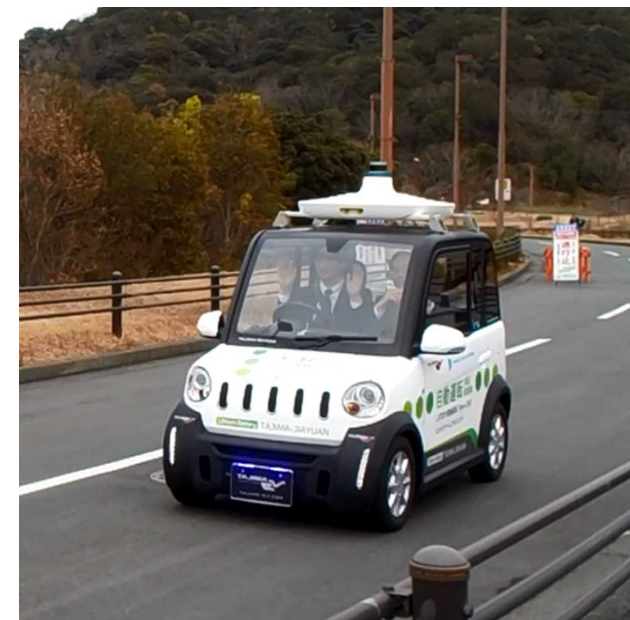
通行人情報
対向車通過情報
停車情報

区域内走行車両数が少ない路線

狭隘道路での走行の実現性の確保と
地域住民のモビリティマネジメントを実施



区分	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体	<ul style="list-style-type: none"> ●8/9 8/16 ShowCASEプロジェクト推進委員会 ●8/22 未来創造会議 						<ul style="list-style-type: none"> ●2月中～下旬 推進委員会 3月中旬 未来創造会議 ● 	
松崎	 <p style="text-align: center;">↔ 日6便往復予定</p> <p>現地調整 11/11～22 実証実験 11/25～12/5</p>							
下田	<p style="text-align: center;">日8便往復予定 ↔</p> <p>現地調整 11/18～27 実証実験 12/3～13</p> 							
沼津	 <p style="text-align: center;">↔ 日7便往復予定</p> <p>現地調整 1/6～17 実証実験 1/22～31</p>							

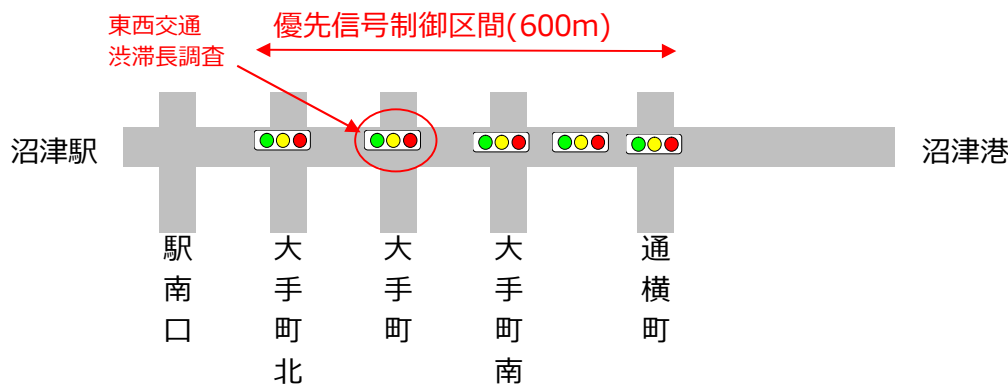
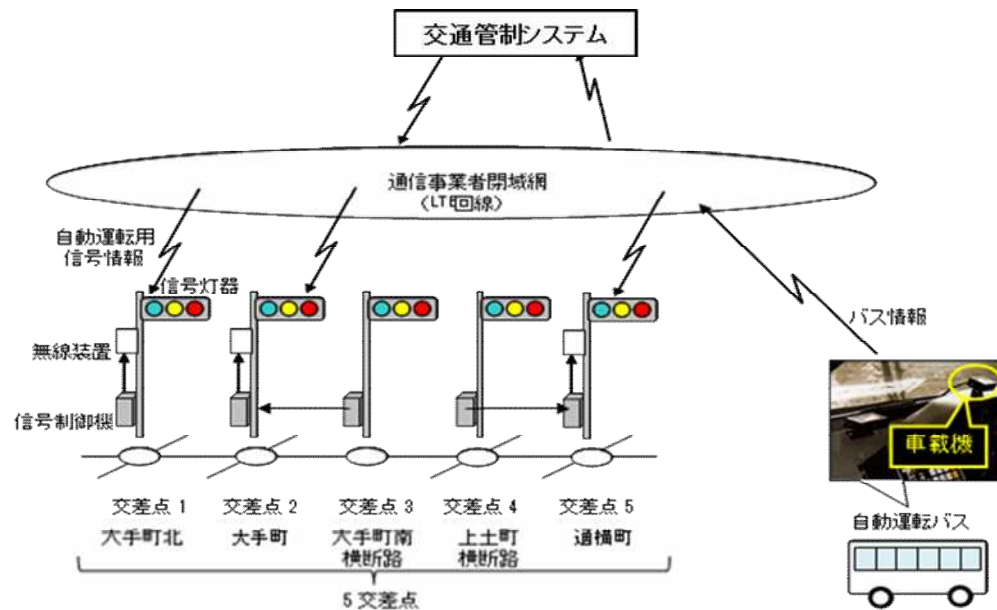


区分	Ecom-10 (沼津市)	ヤマハカート (下田市)	ジャイアン (松崎町)
最高時速(km/h)	19km/h	15km/h	45km/h EV充電132km/回
車両規格(cm)	L500 W200 H300	L356 W124 H210	L250 W130 H170
乗車定員(名)	16名 (一般乗客15名)	4名 (一般乗客2名)	2名 (一般乗客1名)
車両重量 (kg)	1,590 kg	478kg	530 kg
走行方法	3次元高精度地図走行		

信号制御方法

【交通管制システムとの連動】

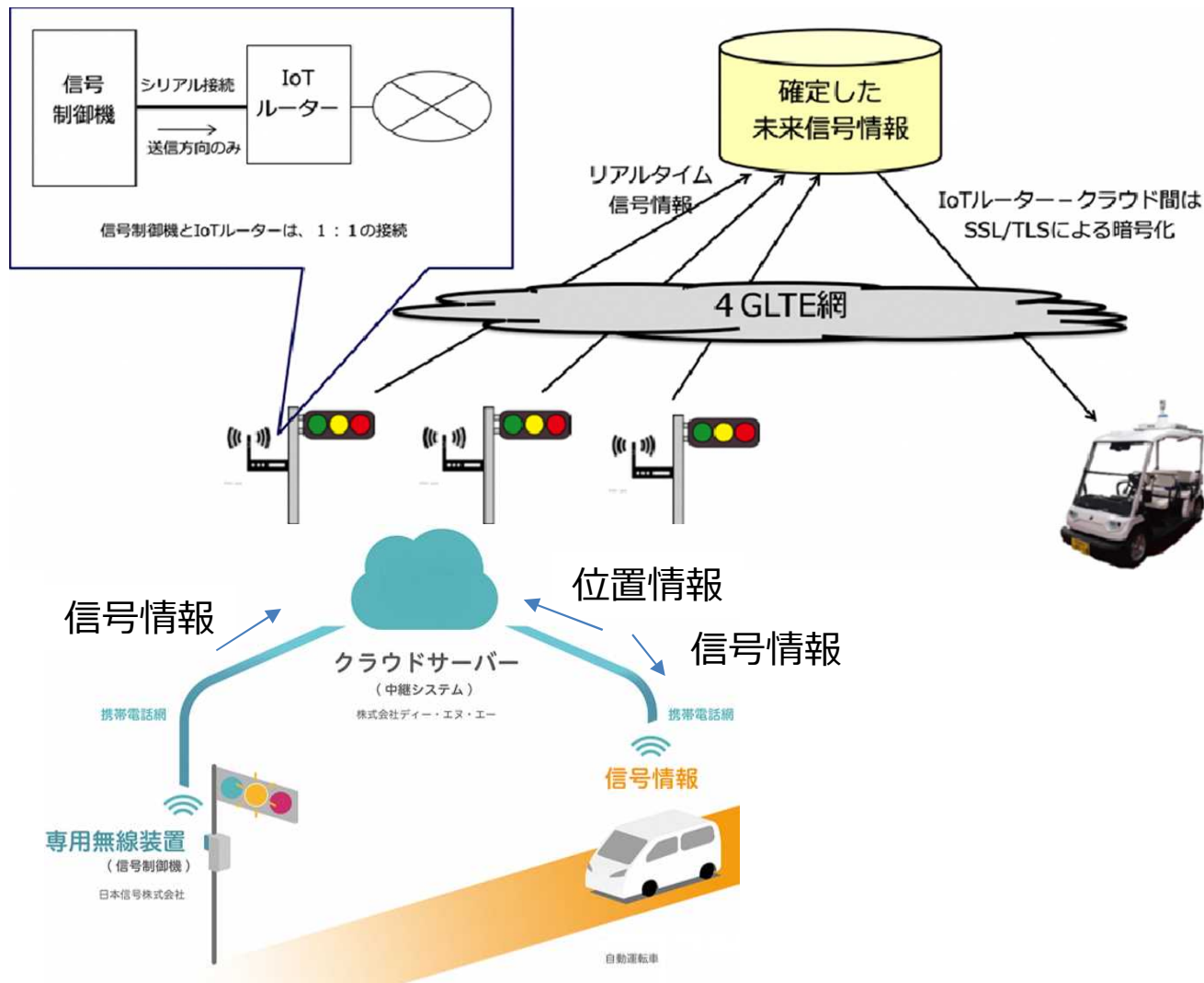
自動運転バスに搭載した車載機からの位置情報を基にしたバス優先信号制御の、バス定時走行支援における有効性を確認すると共に、優先信号制御による交差点の渋滞への影響を調査する。



信号制御方法

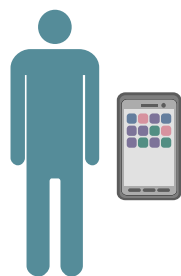
【信号情報と車両制御システムとの連動】

既存の信号情報を無線通信によりクラウドに送信し、リアルタイムの情報を車両に送信。車両サイドでは、信号情報に併せて停止、出発等のタスクを実施。



- 本実証実験は、静岡県における交通課題解決に寄与すると考えられる3種類の自動運転移動サービス地域における受容性評価・課題検討を行う。
- 実験の評価は、自動運転の試乗者を対象としたアンケートを通して実施。
- 沼津市) 主に観光客への利用者アンケートを実施
- 下田市) 地域住民による具体的な感想等を収集するために、実験後に住民説明会を開催し、インタビューによる評価を実施
- 松崎町) 地域住民を試乗者の対象とし、アンケートの入力とともにヒアリングを実施

①予約



②自動運転体験・アンケート



③住民説明会・インタビュー ※下田市を対象



	①予約	②自動運転体験・アンケート	③住民説明会・インタビュー
試乗体験フロー	アプリを用いて、利用者自身が予約する。	予約した車両が到着したら乗車し、自動運転を体験する。	
評価方法(概要)		乗車後、利用者自身がアンケート(Webまたは紙)に回答する。 ※アンケートは設問数が限られるが、多数の利用者の総論としての意見を確認することが可能。	実証実験終了後に住民説明会を開き、自動運転を体験した利用者へのインタビューを実施する。 ※インタビューは人数が限られるが、具体的な意見を確認することが可能。
実施地域	下田・松崎・沼津	下田・松崎・沼津	下田

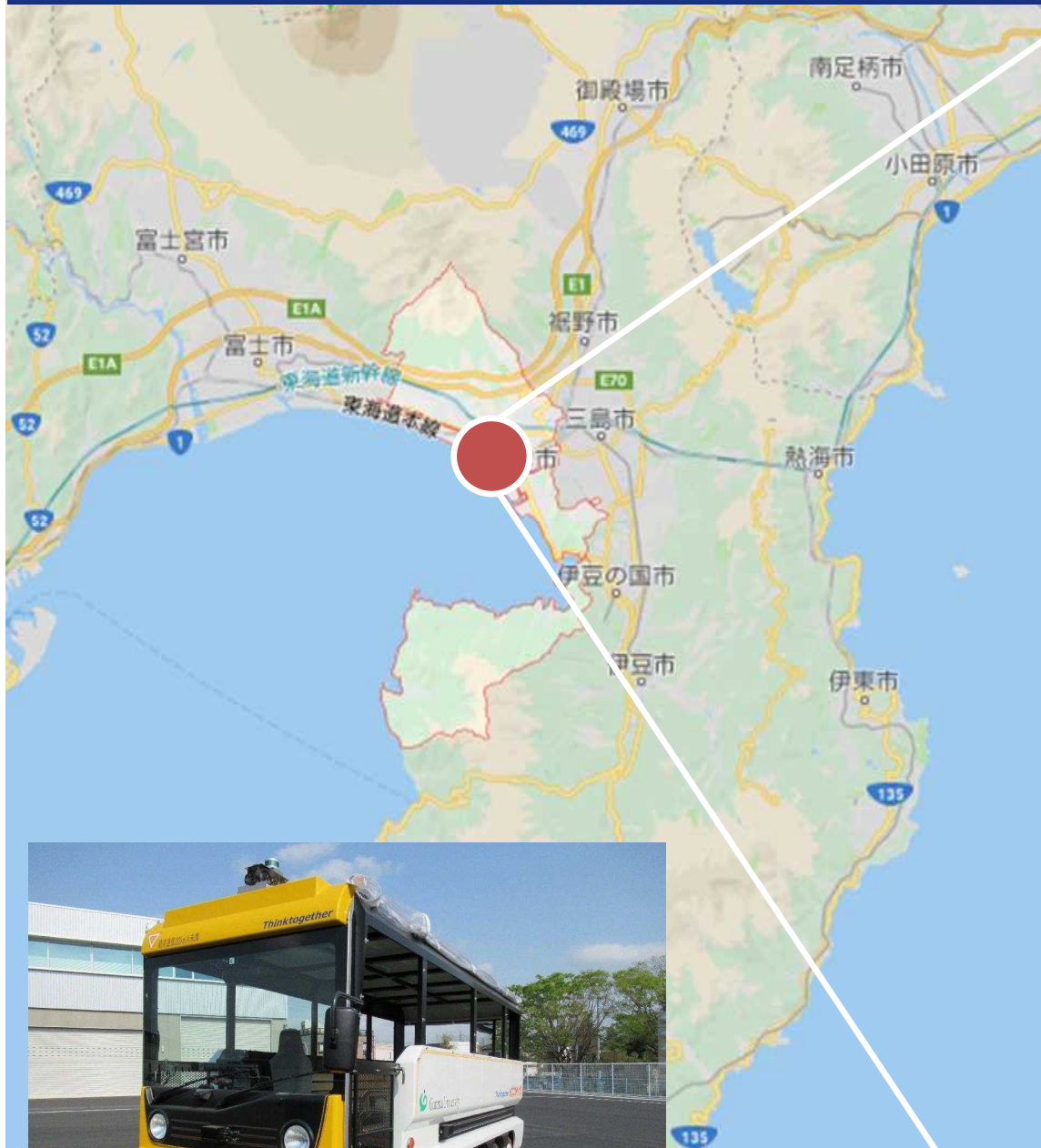
	観光客	地域住民
沼津	<p>Webアンケート（サンプル数：2,100人）15人×14便/日×10日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを用いた次世代モビリティの可能性について、観光客及び地域住民のニーズを調査 ・自動運転のテクノロジー面・走行安全面 	
下田	<p>Webアンケート （サンプル数：160人） 2人×8便/日×10日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動運転のテクノロジー・走行安全面について ・観光MaaSにつながるような、自動運転への意見の収集 	<p>Webアンケート（サンプル数：160人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動運転のテクノロジー面・走行安全面 ・地域交通につながるような、自動運転への意見の収集 <p>アプリモニターアンケート（サンプル数：30人） AIデマンド運行範囲内10地区×3名(高齢者・免許不所持・主婦等) にタブレットを貸し出し、AIデマンド交通の利用と自動運転を試乗し、実験後にヒアリングによるインタビューを実施</p>
松崎	<p>紙アンケート（サンプル数：120人）1人×12便/日×10日</p> <p>地域住民の普段の移動時の課題・困り事や、自動運転へのニーズや自由回答を含めて具体的な意見を直接聞き取りにより収集する</p>	

表凡例 Webアンケート

紙アンケート

モニター

区分	下田	松崎町	沼津	袋井
実験時期	2019.12/3~12/13	2019.11/25~12/5	2020.1/22~1/31	2019.12~2020.1
地元調整・アンケート	下田市	松崎町	沼津市	袋井市
コース	①下田駅-道の駅(1.7km) ②下田駅-MC(1.2km)	岩科学学校⇔八木山(自動)(2.7km) 長八⇔岩科学学校(手動)(2.3km)	沼津駅-沼津港(2.2km)	園路とP 8
停留所	下田駅、道の駅、 メディカルセンター	重文岩科学学校 八木山、長八美術館	沼津駅 沼津港	
頻度・ダイヤ	8往復/日	6往復/日	7往復/日	
高精度3D地図	高精度3D地図作成 (ダイナミックマップ基盤)			
3次元 点群データ	市道部分含む (R1東急撮影データ)	全線県道 (H29県撮影データ)	全線県道 (H29県撮影データ)	全線撮影済 (H30県市撮影データ)
実験レベル	レベル3			レベル3~4
自動運転走行車両	ヤマハカート (名古屋大学)	ジャイアン (タジマEV)	Ecom-10(群馬大学)	コンチネンタル・オートモーティブ
最高時速 人数	15km/h 4人乗り	30km/h 2人乗り	19km/h 16人乗り	
インフラ設備	信号情報無線連動 (DeNA)	2020年度予定	交通管制信号制御 (小糸製作所・コイト電工)	未定
アプリケーション	Izuko, MiXway (ヴァル研究所)			なし
運行管理	伊豆急東海タクシー (東急電鉄)	東海自動車 (小田急電鉄)	伊豆箱根バス ※東海自動車	なし
保険	損保ジャパン日本興亜			
道路運送法	許可不要：無償運送方式			なし



沼津駅











長八美術館

バス停名
長八美術館/東海バス

岩科学校

バス停名
重文岩科学校/東海バス

バス停名
八木山/東海バス

八木山



未来創造まちづくり構想検討会議

会長 森川高行(名大学教授)
学識委員、国、県 など

計画策定・実験の実施

意見・評価

しずおかShowCASEプロジェクト推進委員会 (H30.10月設置)

県交通基盤部関係局長
県経済産業部関係局長
県経営管理部関係局長
県警交通部参事官
ダイナミックマップ基盤(株)取締役

事務局

静岡県 (地域交通課)

連携企業 (11社)・大学 (2校)



協定

実験フィールドとして利用

エコパドリームプロジェクト 事務局:袋井市

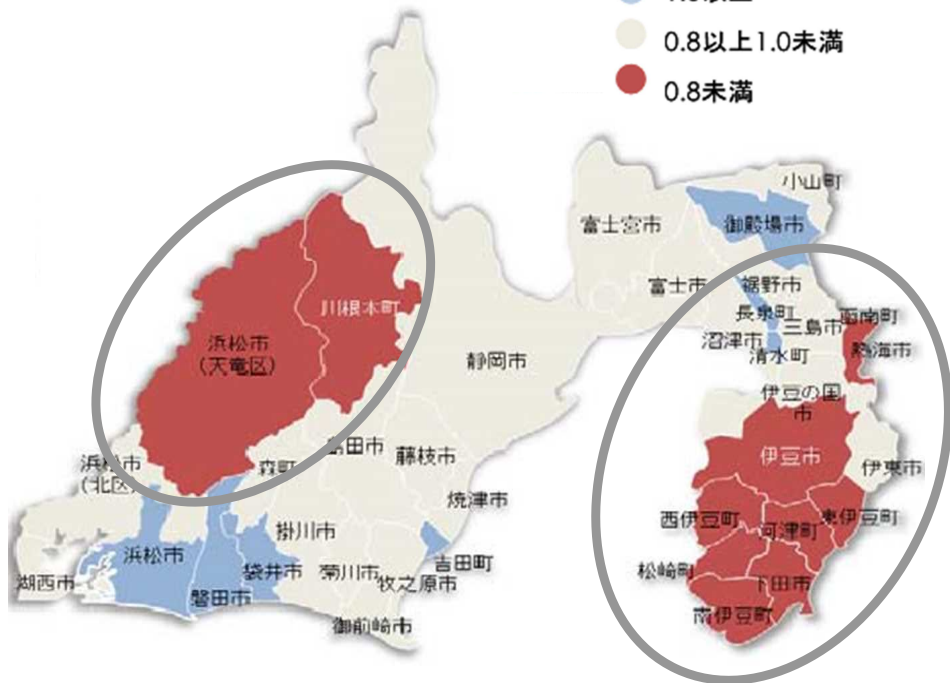
公道実験の地元調整や道路運送法による手続きなど

南伊豆・西伊豆地域公共交通活性化協議会 (道路運送法に基づく協議会) H27.3月設置
沼津市・伊豆市・下田市・松崎町・西伊豆町・南伊豆町・運輸支局・警察署・交通事業者等
事務局：県地域交通課

● 過疎化の進行

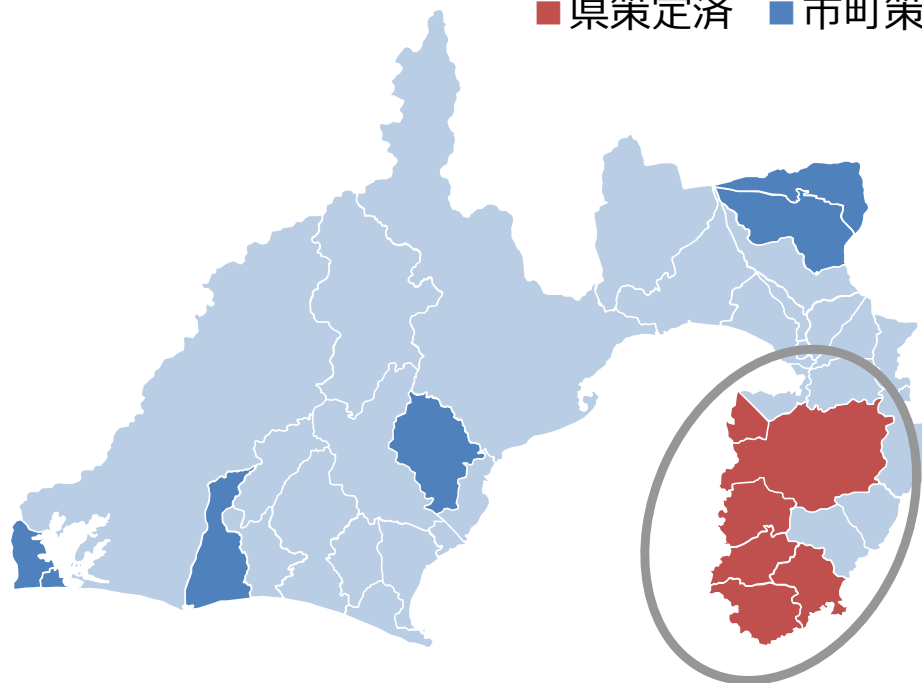
将来人口の増減
2030年の推計人口/2005年人口

- 1.0以上
- 0.8以上1.0未満
- 0.8未満



● 地域公共交通網形成計画

■ 県策定済 ■ 市町策定済



交通事業者

市町

県(事務局)

協議会構成員
による費用負担

計画の推進

南伊豆・西伊豆地域 (H27.3月設立)

- ・実施市町: 沼津市・伊豆市・下田市・南伊豆町
西伊豆町・松崎町 (3市3町)
- ・交通計画: 地域公共交通網形成計画(H28-32)
- ・計画概要: 交通課題に対する事業の実施等
- ・構成委員: 県)事務局、市町、交通事業者、公安等

バス路線の再編

観光利用の促進

交通結節点の改善

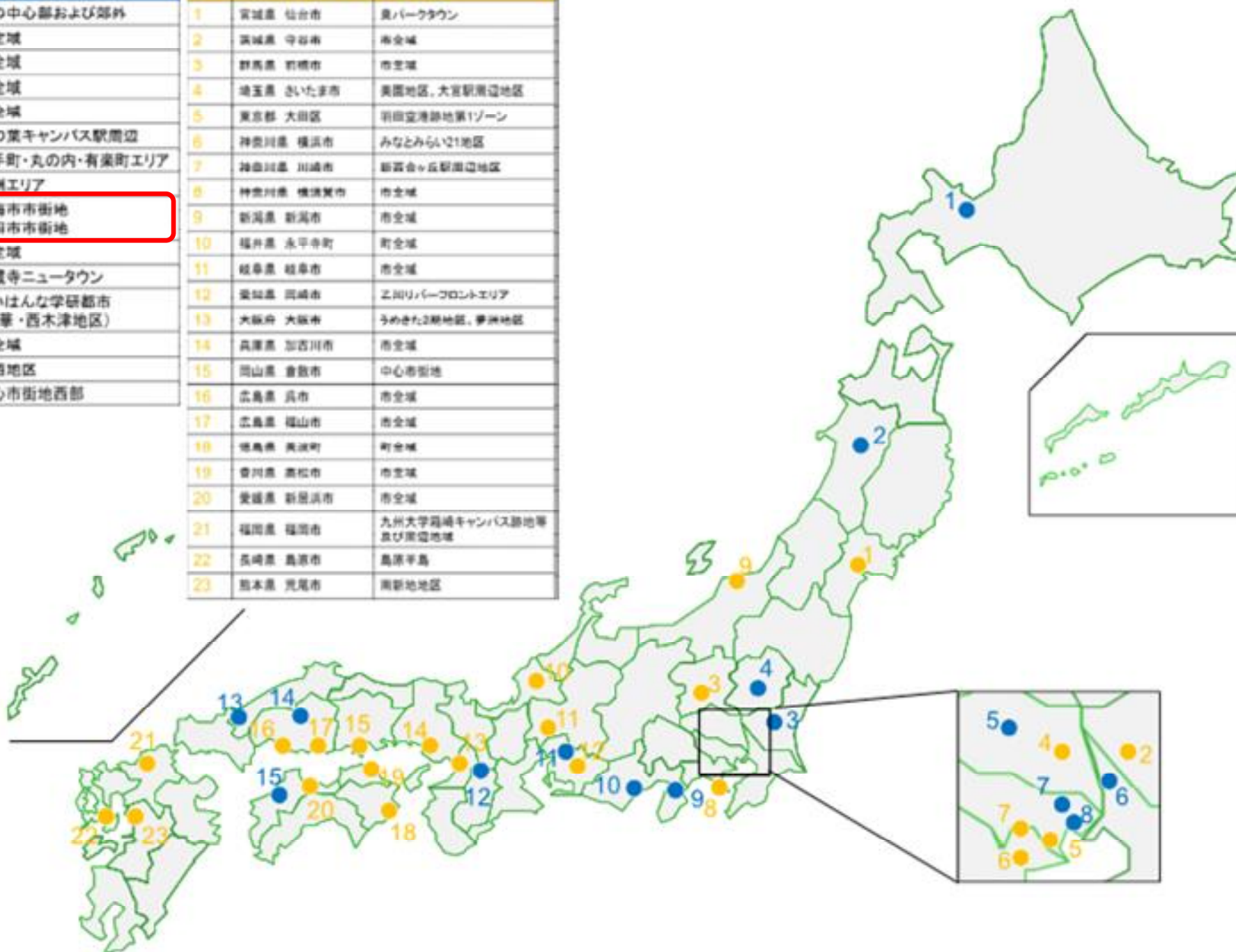
スマートシティプロジェクト箇所図

◆先行モデルプロジェクト

◆重点事業化促進プロジェクト

番号	プロジェクト実施地区	対象区域
1	北海道 札幌市	市の中心部および郊外
2	秋田県 仙北市	市全域
3	茨城県 つくば市	市全域
4	栃木県 宇都宮市	市全域
6	埼玉県 毛呂山町	町全域
6	千葉県 柏市	柏の葉キャンパス駅周辺
7	東京都 千代田区	大手町・丸の内・有楽町エリア
8	東京都 江東区	豊洲エリア
9	静岡県 熱海市 下田市	熱海市市街地 下田市市街地
10	静岡県 藤枝市	市全域
11	愛知県 春日井市	高蔵寺ニュータウン
12	京都府 精華町 木津川市	けいはんな学研都市 (精華・西木津地区)
13	鳥取県 益田市	市全域
14	広島県 三次市	川西地区
15	愛媛県 松山市	中心市街地西部

番号	プロジェクト実施地区	対象区域
1	宮城県 仙台市	泉パークタウン
2	茨城県 守谷市	市全域
3	群馬県 前橋市	市全域
4	埼玉県 さいたま市	美園地区、大宮駅周辺地区
5	東京都 大田区	羽田空港跡地第1ゾーン
6	神奈川県 横浜市	みなとみらい21地区
7	神奈川県 川崎市	新百合ヶ丘駅周辺地区
8	神奈川県 横浜質市	市全域
9	新潟県 新潟市	市全域
10	福井県 永平寺町	町全域
11	岐阜県 岐阜市	市全域
12	愛知県 岡崎市	三河リバーフロントエリア
13	大阪府 大阪市	うめきた2期地区、夢洲地区
14	兵庫県 加古川市	市全域
15	岡山県 倉敷市	中心市街地
16	広島県 呉市	市全域
17	広島県 福山市	市全域
18	徳島県 美波町	町全域
19	香川県 高松市	市全域
20	愛媛県 新居浜市	市全域
21	福岡県 福岡市	九州大学福岡キャンパス跡地等 及び周辺地域
22	長崎県 島原市	島原半島
23	熊本県 荒尾市	南新地区

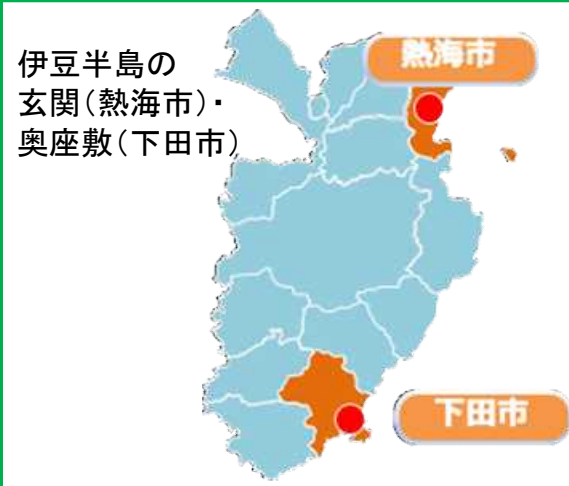


「VIRTUAL SHIZUOKA」が率先するデータ循環型SMART CITYコンソーシアム³²

【地方公共団体：静岡県 民間事業者等代表：ソフトバンク株式会社】

- 人口減少・高齢化の進行が著しく、地元産業の担い手不足、流通・交通サービスの衰退、急峻な地形による脆弱な公共交通網、災害時の交通インフラの分断の懸念等への対応が課題。
- 3次元点群データを活用してサイバー空間に仮想3次元県土「VIRTUAL SHIZUOKA」を構築し、各種コンテンツと連携、利活用を促進することで、自動運転などの新技術による社会的課題の解決、誰もが安全・安心で利便性が高く快適でスマートな循環型の地域づくりを目指す。

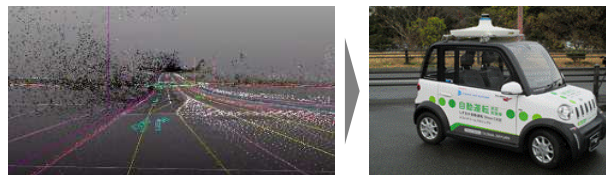
◆対象区域



◆新技術・データを活用した都市・地域の課題解決の取組

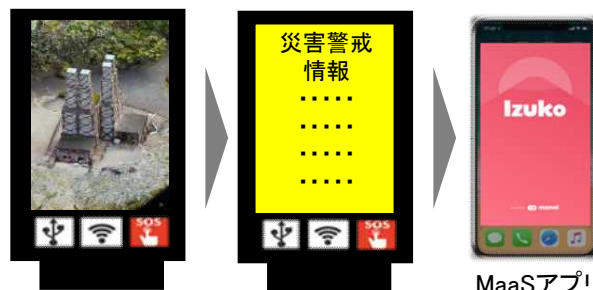
自動運転車による観光客の移動支援

- ・オープンデータ化した3次元点群データからダイナミックマップを作成し、自動運転化したデマンドタクシーによる観光客の移動支援の実証実験



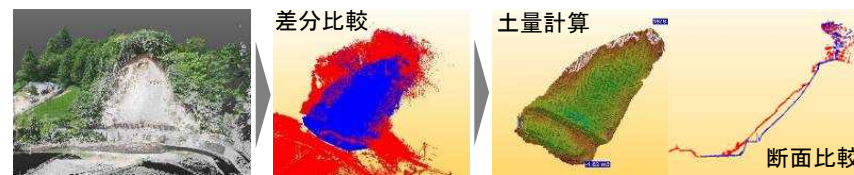
伊豆観光型MaaSとの連携

- ・観光客の利便性向上、防災対策のため、交通事業者の運行情報や緊急災害情報をデジタルサイネージ・MaaSアプリで提供



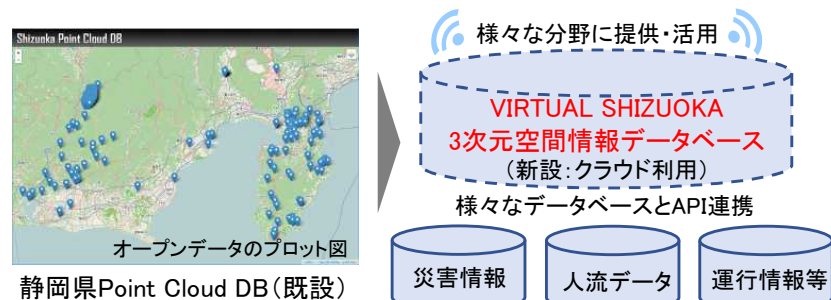
災害対応の迅速化・インフラ維持管理

- ・道路、河川等インフラ施設の3次元点群データの差分により経年変化を把握し、維持管理に活用
- ・災害対応の迅速化のため、面的に3次元点群データを取得。被災前後の差分により速やかな情報把握と復旧活動に活用



3次元空間情報データベース「VIRTUAL SHIZUOKA」

- ・全国に先駆けて3次元点群データの取得・蓄積により3次元空間情報データベース(Point Cloud DB)を構築
- ・官民の様々なデータ(位置、災害、交通、インフラ、人流等)と連携し、様々な分野での利活用を図る



◆事業実施体制

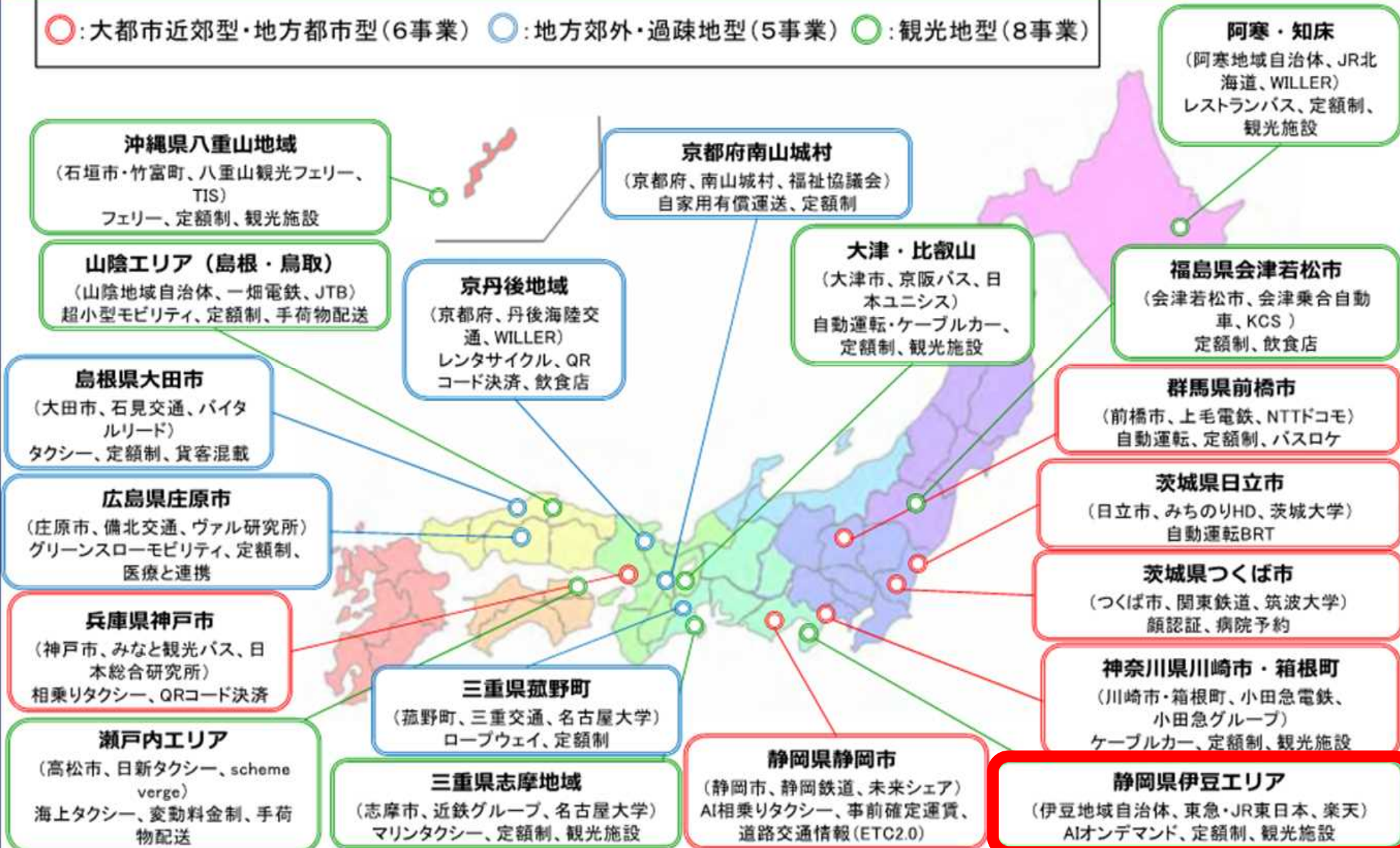
企業・自治体	役割
ソフトバンク	通信(5G)・共通基盤(クラウド)システム・UXデザイン
COCN (パソコ、三菱電機、三菱総研)	3次元位置情報・インフラ維持管理
ダイナミックマップ基盤	自動走行用高精度3次元地図
東急電鉄	MaaS連携・観光振興
タジマEV	自動運転車両
ナイトレイ	人流データ分析
下田市・熱海市	行政課題、地元調整
静岡県	事務局

◆2019年度の主な取組

- ・下田エリアにおける観光型MaaSの実施・継続
- ・下田エリアにおいて、デマンドタクシーの自動運転実証実験

新モビリティサービス推進事業 先行モデル事業

○:大都市近郊型・地方都市型(6事業) ○:地方郊外・過疎地型(5事業) ○:観光地型(8事業)



伊豆における観光型MaaS実証実験(伊豆における観光型MaaS実証実験実行委員会)

観光地型

実験の概要(100字程度)

伊豆地域を来訪する観光客が、2次交通(路線バス、AI型オンデマンド交通、自転車、レンタカー等)をスマートフォンで予約・決済でき、目的地までシームレスに移動できる快適な環境を、地元各社と協力して整備することで、観光振興と地域活性化を図る。

【実行委員会の構成員】

一般社団法人美しい伊豆創造センター、東京急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、楽天株式会社、伊豆急行株式会社、東海自動車株式会社、伊豆箱根鉄道株式会社、伊豆箱根バス会社、株式会社伊豆クルーズ、一般社団法人伊豆半島創造研究所、静岡県タクシー協会、JR東日本レンタリース株式会社、静岡県、国土交通省静岡運輸支局、株式会社ジェイアール東日本企画

【地域の交通課題】

バスやタクシー運転手の高齢化や人手不足により、2次交通維持が難化しつつあり、観光客や住民のスムーズな移動を阻害している。2次交通脆弱化により、伊豆来訪者の8割が自家用車を選択する結果、幹線道路の大渋滞などの問題を引き起こしている。

本格的な導入に向けた検証項目、目標値

アプリダウンロード数:20,000(4月から実施;達成済み)
デジタルフリーパスの販売数:10,000件(4月から実施)

●実験期間:2019年9月1日~11月30日

●実験内容(詳細は添付資料①~④を参照)

・専用MaaSアプリ「Izuko」の開発と機能更新
ダウンロード、利用は無料
日英2ヶ国語対応

・デジタルフリーパス3種の販売(2日間有効、有料)
東伊豆と中伊豆における鉄道とバスが一定区間で乗り放題となる電子チケットを販売。クレジットカード登録により、アプリ内で決済可能。

・AI型オンデマンド交通(1日間有効、有料)
下田駅周辺で地元タクシー会社と連携しAI型オンデマンド交通を構築。アプリ内で予約、決済可能。

・観光施設デジタルチケットの販売(1日間有効、有料)
下田海中水族館や遊覧船等、10施設前後のデジタルチケットを販売。アプリ内で決済可能

・その他Izukoで対応できること
経路検索(検索結果から交通機関の決済が可能)
レンタサイクル、レンタカーの予約(リンク)

概要

AI、IoTや自動運転、ドローン等の近未来技術の実装による新しい地方創生を目指し、自主的・主体的で先導的な最も優れた施策について、各種交付金、補助金等の支援に加え、社会実装に向けた現地支援体制（地域実装協議会）を構築するなど、関係府省庁による総合的な支援を行う。昨年8月に14事業を選定し、選定事業毎に現地支援責任者を特定し、実装に向けた現地支援体制を構築して事業を推進中。

事業の選定

○対象事業

2020年度までに具体的な近未来技術の実装（一部でも可）が見込まれ、その後2024年度までに本格実装される（他地域への横展開が可能となる）事業

近未来技術の実装には
広い分野の支援が必要

徹底的に省庁の縦割りを排除

世界に先駆け
Society 5.0[△]

2020

地域実装協議会
(支援パッケージ)

サンドボックス
適用等

総合的支援

提案募集/選定

A省
単独省庁支援

B省関連事業
自治体支援

C省関連融資
企業者支援

実装の横展開

支援体制

- 選定事業毎に、現地（地方公共団体）に地域実装協議会を組織し、社会実装に向けて必要な事項を検討
- 中央に省庁連絡会議を設置し、選定された取組について横断的・集中的に支援

「〇〇地域実装協議会」（事務局：地方公共団体）

都道府県、市町村、総合通信局、地方財務局、地方厚生局、地方農政局、経済産業局、地方整備局、地方運輸局、事業者等（テーマに応じて構成）

<協議会の役割>

- (1) ワンストップ支援（制度運用・技術的な助言）
- (2) 関連予算の整合的執行（PDCA管理）
- (3) 事業間の総合的な調整（即地的、個別的調整）
- (4) 関係者の定期的な会合（改善点の特定等）

<現地支援責任者の選定>

- (5) テーマに応じて現地支援責任者を選定し、内閣府に併任

近未来技術実装関係省庁連絡会議（局長級）

内閣府、警察庁、金融庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省の地方創生関連部局

幹事会（課長級）

●近未来技術等社会実装事業（平成30年度選定）14事業

北海道・岩見沢市・更別村、宮城県仙台市、茨城県・つくば市、埼玉県川口市、千葉県千葉市、愛知県、愛知県豊橋市、愛知県春日井市、愛知県豊田市、京都府亀岡市、大阪府・河内長野市、兵庫県神戸市、鳥取県、大分県

提案タイトル

「VIRTUAL SHIZUOKA」が率先するデータ循環型SMART CITY

提案者

静岡県

活用技術

AI・IoT、自動運転

背景・課題

目指す将来像

解決すべき課題

- 3次元点群データを活用し、サイバー空間に仮想3次元県土「VIRTUAL SHIZUOKA」を構築し、仮想空間にあらゆる分野のデータを入力して災害や人の流れ、自動運転などの模擬実験を行うことで、合意形成の迅速化や生産性向上を目指す
- 伊豆地域の公共交通は東海岸の鉄道、路線バスに依存しており、土砂崩れなどの災害による通行止めが地域の社会活動に影響を与える恐れがあり、ICTの導入や新技術の活用により早期に復旧できる体制を整えておくことが必要不可欠である
- 高齢者の運転免許証返納者数の増加や若年層の車離れの進行など、多様な移動サービスへのニーズが高まっている

実装を目指す主な事業内容

○事業：自動運転技術を活用したオンデマンド交通の導入

○事業：5Gを活用した複数台の遠隔型自動運転技術の導入

活用技術

事業概要

AI・IoT
自動運転

- 下田地区において、伊豆観光型MaaS(※)と連携したオンデマンド交通に交通事業者がレベル3の自動運転車両を導入する
- 自動運転車両からの外部情報提供

活用技術

事業概要

AI・IoT
自動運転

- 熱海・下田地区で実証した自動運転技術の横展開
- 西伊豆地域において、遠隔型自動運転(レベル4)を導入する
- 運転手不足に悩む交通事業者が5Gを活用し、一人の運転手が営業所から複数台を遠隔監視する



自動運転車両(デマンドタクシー)の予約と決済がMaaSアプリで完了



後続車の不満の低減に向けた電光掲示板による情報提供

道路運送法
道路運送車両法
道路交通法 など

※: Mobility as a Serviceの略。鉄道・バスなどを一体的に検索・予約・決済できるシステム。